

3. 生活指導の場面で

ただ、口から耳に伝えるだけでは、幼児にはなかなか理解できませんが、耳に訴えるのと同時に、目にも訴えて、幼見の“視聴”両器官を動員させたほうが、印象に強く残るのは当然です。

“漢字で指導”することの効果は、実に明瞭です。

「左側通行」「静かに」「手を洗いましょう」……掲示は必ず漢字で書くことです。かなでは、みんな同じように見えて、実際の用をなしません。漢字は、初めて見た時には読めませんが、教えたらすぐ覚え、覚えたらすぐ読めて、意味がすぐに判ります。

名神高速道路が完成した時、標示の文字にローマ字を使ったところ、読取るのに数秒もかかることがわかり、高速道路には使えないことがわかりました。

かなだと、数分の一秒で読めますが、これでも秒速20メートルの自動車の中からでは読めません。これが漢字ですと、数十分の一秒で読めます。そこで、高速道路で用いる文字は漢字にしようということに決ったそうです。

漢字は、かなの十分の一の時間で読取れます。これが、漢字の長所です。掲示用には最適の文字です。

コ ラ ム

諺

傍若無人

“人を人とも思わぬ無礼な態度や言動”。二千年も前の、史記のけいか荊軻の伝記にある言葉。「かたわら傍に人無きがこと若し」と訓読されるように、周囲にどんなに人がいても全く気を遣わないことで、“周囲に人がいないのと同じだ”と言った。

【傍】 旁が城門の“市”に“方”を加えた字で、“城門の左や右の方”つまり“かたわら”のこと。これに人を加えた「傍」は“人のかたわら”という意味。

   

【若】 右手の「右」と草の「艸」で“手で摘み取る草”つまり春の野に出て摘む“若草(若菜)”のこと。今では“わかい”と使われる。

   